

基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫
～主体的・対話的で深い学びを通して～

I 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して、基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫を考える。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践及び研究を行う。

2 研究概要

- (1) 授業研究を通して、研究のねらいに迫る。

2月 「ゴール型：ハンドボール」 山梨南中学校 森脇雅人 教諭

本来は「武道：柔道」の授業研究を考えていたが、変更

- (2) 各校における基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫についての取り組み実践や学習カード等の情報交換、先進校の文献や資料を参考に、指導案・学習カードの研究を深める。

3 理論研究に基づいた授業実践について

授業研究では、公開授業を避け事前に録画した授業の様子をビデオを通して行なった。生徒が自ら率先して学習している様子を見ることができた。今年度は特に感染予防を考慮しなければならなかったこともあり、ICT機器や話し合いの持ち方を特に考慮した授業展開で行った。授業の活動の中で審判の役割を重視し、学び合い活動も活動量も確保できるようにすすめた。審判活動を取り入れたことで、ルールに関心を持ち、他者観察をする意識が強くなったように見受けられた。特に、活動の中で言葉かけをする場面が多くみられた。研究会において、さらに指導案や評価規準・学習カード等の情報交換や学習会は、今後も生徒の実態に合わせ実践を深めていきたい。

II 成果と課題

話し合い活動や学び合い活動を工夫することで、活動量を確保しながら、主体的・対話的で深い学びの授業実践をし、基本的な技能の定着を目指して授業の工夫を行ってきた。「授業活動の場面において、対話的な学習をどのように活用するか」について「主体的・対話的で深い学び」の持ち方を工夫・改善した。生徒が授業の中で「審判の目線」から、他者観察を行う中でアドバイスや指示といった言葉かけができるよう、学びあいの時間やお互いに理解を深めたりできる場を設定したことは効果的であった。

来年度から行う単元の評価規準を視野に、指導案作成のポイントを学習し「授業の中で何を指し何をみとるか」自己評価にも他者評価にもつながるような学習カードがどの単元でも活用できるよう研究を深め作成につとめたい。

Ⅲ 成果物

1 研究授業

- (1) 単元名 「球技」「ゴール型：ハンドボール」 中学1年生
- (2) 授業者 山梨南中学校 森脇雅人 教諭
- (3) テーマ ～基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫～

ア 授業の流れ

- ・ ショートダッシュトレーニング，ストレッチ体操，あいさつ，出欠確認，健康観察
- ・ 本時の学習確認「ねらい：審判活動による気づきを仲間に伝え，プレイの向上をめざそう」
- ・ 基礎技能練習：キャッチボール，ドリブル，シュート，3人一組パスゲーム（2人がパス，1人がDF）
- ・ パス，シュートを含めたボール操作練習：GK（交代しながらおこなう）
- ・ アウトナンバー：3対2（ドリブル2回までとする）攻撃練習

イ 「主体的・対話的で深い学び」に迫る手立て

- ・ 審判役生徒：基礎技能練習後，攻撃側生徒が向かってくるゴール側付近に2名を配置した。審判役生徒は，反則を口頭で伝えるとともに，他者観察で感じたことやプレイのアドバイスを行った。
- ・ 3対2からは，ホイッスルも使用し，ゴール付近で攻撃が終了するまで審判を行い，攻撃が終了した仲間にアドバイスや動きの確認などを話す機会を持った。この間も別のグループは3対2の練習を行っているので，次の順番が回ってくるまでに，反省やアドバイスに対する修復，課題の確認をしてから練習にのぞめていたので，活動量の確保も出来ていた。
- ・ 審判は2人体制で行うので，互いに声に出し確認をしながらホイッスルを鳴らしていたので，ルール習得にも大いに役立っていた。

ウ 教材教具等の工夫

- ・ 練習の中で，確実に反則としてとらなければならない項目を提示し，相手ボールになる反則についてはホイッスルを長く鳴らすことで攻防の切りかえが早くなるよう工夫が見られた。
- ・ 一枚ポートフォリオの個人カードに，アドバイス補助カードを記載していることで，技能向上にも仲間に伝える語彙力向上にも役立っていた。また単元のながれが記載されたカードは，教師も生徒もこの時間のねらいがはっきりわかるようになっているので，自己評価にも役立っていた。

来年度に向けて

単元において，「いつ，どこで，何をみとるか」「単元を通して何を学ばせたいのか」といった授業観を持つことが重要であり，各校の実態に応じた授業実践と情報交換で共通認識を持ち，研究を深めていきたい。（部長 平野淑江）